

マルチメディアDAISY図書普及のための取り組み —NPO法人CANVASとの連携

墨田区立ひきふね図書館
新川 英一

はじめに

墨田区立ひきふね図書館は、2013年4月に開館して以来、古くからの住民の方や、最近増加している高層マンションに住んでいる若いファミリーの方など、さまざまな年齢層の方々に利用していただいております。

ひきふね図書館障害者サービス担当は、現在4名体制で、音訳ボランティアの育成、視覚障害者の方への資料宅配、授産施設への図書・CDの出張貸出、高齢者施設での催し物の実施、DAISY図書の作成など、幅広く事業を展開しております。

その中で、最近力を入れている事業の中に「マルチメディアDAISY図書の普及活動」が挙げられます。現在ひきふね図書館には、一般貸出ができる青色のマルチメディアDAISY図書と、著作権法により、一般貸出はできず、障害者登録した方への貸出のみ可能な白色のマルチメディアDAISY図書など、あわせて約200タイトルを保有しています。これらのマルチメディアDAISY図

書を、いかに多くの方々に利用していただくかが現在の課題となっています。

NPO法人CANVASとの コラボ企画

ひきふね図書館では、一般の利用者が入ることのできない、図書館5階の障害者ボランティアルームに、マルチメディアDAISY図書が配架してあります。このため、マルチメディアDAISY図書が図書館にあるということを知らない方や、マルチメディアDAISY図書そのものを知らない方も多い状況です。



ひきふね図書館ボランティアルーム内の
マルチメディアDAISY図書の書架



マルチメディアDAISY図書

そのため、マルチメディアDAISY図書の有用性について普及活動をさらに進めていく必要があります。

そんな折に区の障害者福祉課から、NPO法人CANVASを紹介され、ひきふね図書館とCANVASでワークショップを開催して、その中で、マルチメディアDAISY図書のPRを行ってみてはどうか、ということになりました。

CANVASは、子どもを対象にした映像・音楽・最新テクノロジー等のワークショップを、学校・企業・自治体と連携して開催し、「遊びながら学ぶ場づくり」を提供する活動をしている団体です。

第1回目のワークショップは、2016年の2月に「主催：ひきふね図書館、企画：NPO法人CANVAS、協力・連携：墨田区障害者福祉課」という形で開催しました。

テーマは、「プログラミングを体験しよう!」ということで、障害のある子どもとその家族を対象に、第1部と第2部に分けて実施しました。

参加者は、第1部が8名（うち子ども3名）、第2部が7名（うち子ども2名）。プログラミングでさまざまな

遊びを体験します。マルチメディアDAISY図書を紹介し、その後担当者がPRを行うとともに、マルチメディアDAISY図書の中でも人気のある作品のひとつである『コッケ モーモー!』を上映。参加者に鑑賞してもらうと、大変好評でした。

また、会場の一部に「マルチメディアDAISY図書コーナー」を設け、マルチメディアDAISY再生用iPadとマルチメディアDAISY図書を並べ、ワークショップが終わったあと、子どもや保護者に手にとってもらえるようにしました。

今回は初めての試みということもあり、試行錯誤の連続でした。特に参加者をどのようにして集めればいいのか大きな課題で、放課後等デイサービス事業所、特別支援学級へのチラシ配布、各種障害者団体へのPR、区公式フェイスブックへの掲載などを行いましたが、実際の参加者は各回とも一桁台という結果でした。

第1回目のワークショップでの課題を踏まえ、第2回目のワークショップを2016年6月に開催しました。開催にあたって、まず、集客の面から周到にやっいていこうと考えました。区公式フェイスブックの掲載や区のお知らせへの掲載などを行うとともに、CANVASは粘り強く区内の放課後等デイサービス事業所、特別支援学校に出向き、ワークショップを行う意義や目的など説明しました。

この結果、複数の事業者から賛同が得られ、募集人数が各部15名に対して、参加者は第1部（小学生対象）が18名、第2部（中学生対象）が27名となりました。

また、ワークショップでは、子どもの集中力を維持するために開催時間を1時間半から1時間に短縮しました。テーマは「デジタルテクノロジーであそぼう!」と題して、自分が描いたキャラクターが泳ぐデジタル水族館をプログラミングで作る体験をしてもらいました。

マルチメディアDAISY図書のPRに関しては、前回と同様、『コック モーモー!』を第1部、第2部とも上映しました。今回も、多くの子どもたちが楽しんでいました。また、前回と同様、マルチメディアDAISY図書体験ブースを設け、実際に操作してもらいました。



マルチメディアDAISY図書が体験できるコーナー

第2回目のワークショップは、参加者数が大幅に増加し、第1回目より一歩前進したといった状況で終了することができました。

第3回目は2016年10月に開催しました。今回も前回と同様、第1部（小学生対象）、第2部（中学生対象）の2部構成で、各部1時間、募集人数15名で実施しました。今回も第2回目同様、施設側に働きかけ、その施設の子どもたちが参加したという状況で、一般の申し込み（インターネット、FAXによる申し込み）で参加された方は多くありませんでしたが、参加者は第1部が22名、第2部が20名でした。

今後は、一般の申込みの方の参加をいかにして増やしていくかが課題となりました。ワークショップは10月31日のハロウィンにちなんで、プログラミングによるハロウィンの世界を創り、それを観てもらいました。



プログラミングで使ったタブレット



プログラミングを使ってデジタル水族館を作っている様子

マルチメディアDAISY図書の上映は、小学生、中学生がそれぞれ興味をもちそうな題材にしようと考え、第1部では『東京モノレールのこれまでこれから』に、第2部では『すもうシリーズおすもうのいろは』としました。いずれの作品も、『コッケ モーモー!』のようにユーモラスな題材ではないのですが、真剣に観る姿が印象に残りました。

ワークショップ終了後、ひとりの小学生がマルチメディアDAISY図書に興味を示したので、職員が、実演を行ったところ、気に入ってもらえたようで、障害者サービス利用登録につながりました。

以上、3回のワークショップを実施してきましたが、いまだ「このようなやり方がベスト」というものはなく、今後も試行錯誤となると考えます。

今年度はあと1回ワークショップを開催する予定となっているので、NPO法人

CANVASと連携を密にしながら、よりよいワークショップを実施し、今後ともマルチメディアDAISY図書を一層PRしていきたいと思います。

おわりに

マルチメディアDAISY図書は、「読みに困難のある人」(ディスレクシア)にとって、非常に有効なツールです。マルチメディアDAISY図書の普及は、読書の喜びを多くの方に与えます。

ひきふね図書館障害者サービス担当は、昨年度からNPO法人CANVASと連携しながら、ワークショップを3回開催するなど、マルチメディアDAISY図書の普及に向けて試行錯誤してきました。

その結果、1人の利用者登録がありましたが、PRの手法については、まだまだ改善していく余地があると思います。今後も墨田区内外の障害者施設、学校、団体等の皆さんの理解を得ながら、マルチメディアDAISY図書のさらなる普及につなげていければと思います。